



興 照 寺 報

平成27年7月

57号



発行 浄土真宗 興 照 寺
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303



竹井 勝志 氏 「冠雪桜島」
(鹿児島美術協会会員、当寺総代)

一面 こんな思いで人生を終えたい
二面 北陸新幹線沿線の見所
三面 春季彼岸のお話、秋季彼岸、
永代経、報恩講のご案内
四面 永代経のお話、納骨堂・お盆についてのお知らせ

こんな思いで
人生を終えたい

健康だったら

力一杯 精一杯

自分のつとめに精進するのだ

病気になったら

医者にかかって養生するのだ

もしも死んだら

極楽浄土へ往生するのだ

何といたすがすがしい生き方だろう

この人生の旅路にも

浮世の嵐は吹いていた

苦難の渦も 巻いていた

立てようなら、腹立つことは

山ほどあった

言おうなら、不足を言う因も

ウンとあった

泣こうなら、泣くべきことは

イヤほどあった

しかし、さほど腹も立てず

愚痴も言わず 泣きもしないで

愉快に過ごした

希望に燃えたち 感謝に溢るる

とてもたのしい一生だった

生まれてきて よかった

(法蔵館「日々の糧」参照)

三月十四日に長野・金沢間が開業した北陸新幹線により鹿兒島から行くには不便な北陸路への道筋が一つ増え、旅の楽しみが広がりました。



平成十二年の十月末にご門徒の方々と金沢・白川郷などを訪れた事が懐かしく思い起こされます。



金沢駅太鼓門 (写真提供：金沢市)

その時は名古屋の飛行場に降りて、バスでの長い移動でした。これからは少し楽になるでしょう。さて、金沢・長野は浄土真宗にもゆかりの多い地です。今回いくつかご紹介させていただきます。金沢のある石川県はかつては加賀の国と言われ、五百年ほど前、真宗のご門徒を中心とする勢力が



金沢城石川門 (写真提供：金沢市)

自分達の守護を擁立し織田信長が入ってくるまでの約百年もの間独自の自治を行った土地です。現在金沢城のある場所に金沢御坊(尾山御坊)というお寺を建てていました。金沢は当初寺内町として発展したのです。真宗に十ある本山のうち四つが北陸にあるなど、現

在でも多くの御同行がおられ、護法に熱心な所です。



善光寺ご開帳

長野の善光寺は創建以来約千四百年という現存する日本最古の寺と言えるでしょう。今年七年に一度の御開帳(秘仏である御本尊の御身代わりである「前立本尊」を本堂にお迎えし行なわれる行事。)



がありました。ドローンという無人機が落ちてくる事件もありました。金沢は多くの参詣者で賑ったようです。

この善光寺に親鸞聖人は越後から関東に移られる時に百日間滞在

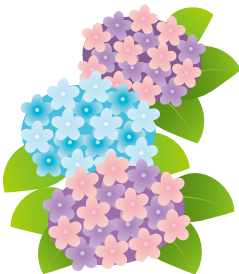
されたそうです。

本堂のびんずる尊者像の脇に、一本の「親鸞聖人お花松」と呼ばれる松が活けられています。聖人が滞在の折、善光寺本尊に松の木を奉納されことに由来しています。境内には右手に松の小枝(お花松)を持つ聖人の銅像もあります。



また、聖人が石に爪で彫られたと伝えられる阿弥陀如来像をまつる小さな祠もあります。

自然や歴史、文化にあふれたこれらの土地を是非訪れてください。



春季彼岸法要

講師 田村 浩州 先生

阿弥陀如来さまのお心をお慈悲といひます。これを分かり良い言葉で表すと親心ということですが。しかし親心だけで子を救う事はできません。子供が溺^ヒれている時に助かってほしいと思うだけでは助からない。救いたいという気持ちには必ず行動になります。親心は必ず形になる。お慈悲が形になったものを撰取^{せんしゆ}不捨^{ふしよ}といひます。

撰取^{せんしゆ}といひるのは逃ぐるものを追わえとる。逃げていこうとするものを追いかけて先回りしてしっかりと抱きかかえる姿です。不捨^{ふしよ}といひるのは捨てないという事です。分かりやすく言うと、私の姿を見た時にこの私を放っておくことができずに阿弥陀如来さまがお浄土より歩み出て今私をしつかりと抱きかかえて下さっている。その働きを撰取^{せんしゆ}不捨^{ふしよ}といひます。

今、如来さまから抱かれていますという実感を私たちは持てないと思ひます。だから、阿弥陀さまが私の口をついて出るようにしてくださったのがお念仏です。お念仏を申しているお方といひるのは如来

さまがすでにしつかり抱いてくださっているということです。お慈悲が私の上に形となってはたらいで念仏となって出てくるのです。

甲斐和里子さんがこのような歌を詠んでおられます。

「み仏の 名を称^{なづ}ふる
わが声は
わが声ながら
たふとかりけり」

お念仏の声は私の声ではあるけれど尊い。それは如来さまのおはたらきだからです。自分の声ではあるけれど、南無阿弥陀仏と出てくる、「必ず救うそのまま救うこの弥陀に任せてくれ」と阿弥陀如来さまが呼んで下さる呼び声です。ねとよろこばれたのです。

また、撰取^{せんしゆ}といひるのは二つの違うものが一つに結びついて離れなくなる事です。朝のうちに撰取した薬を多く飲みすぎたからと夜に取り出そうとしてもできないように、私と如来さまが一つとなつて結びついたならもう二度と離すことは出来ない。これを撰取^{せんしゆ}といひのです。

お浄土に還^{かへ}らせていただけるように如来さまは私のうえに仏の命となつて飛び込んでくださっています。妙好人^{たうごうじん}に「わしが仏になるじゃない。仏がわしになつてくだ

さる」と言われた方がありました。私が今から一生懸命お参りしてお念仏して仏になつていくのではなく、阿弥陀さまが私になつてくださるのです。だからどこで命が終わつてもお浄土に生まれられるのです。私たちは人間の命一つと思つていますが、仏の命もいただいているのです。人間の命が消えたなら仏の命が輝くようになってくる。如来さまが私のうえに仏の命となつて飛び込んでくださつて、内にいるから内からでるそれがお念仏です。阿弥陀如来さまのお慈悲が私たちとなつて私の上に着いて下さつたならば、その証拠としてかならずお念仏がでてください。

どんなお供えよりも、小さな声でもお仏壇の前で念仏申す姿を、仏さまになられた亡き方々、ご先祖の方々は「ああこの子もご縁におうてくれたか」とよろこんでくださるのです。

(要旨)



秋季彼岸法要のご案内

・ 期日 (○のある日時にあります)

九月	午 前	午 後
二十日(日)	○	○
二十一日(月)	○	吹上
二十二日(火)	吹上	吹上
二十三日(水)	○	○
お中日	○	○

秋季永代経法要のご案内

- ・ 時間 午前十時より 午後二時より
- ・ 講師 隆野正信先生 (山口県)
- ・ 期日 十月二十四日(土) 二十五日(日)
- ・ 時間 朝席十時より 昼席二時より
- ・ 講師 田中唯信先生 (広島県)
- ・ ※永代経志納のお勤めは、二十五日昼席に行います。まだ永代経をあげておられない方は、寺へお問い合わせください。

報恩講のご案内

- ・ 期日 十一月二十二日(日)
- ・ 時間 朝九時半より と 昼席二時より
- ・ 講師 福高英昭先生 (福岡県)

春季永代経法要

講師 田中 了彰 先生

この度の永代経法要は、田中先生にお念仏について嘸み碎いてご丁寧に分かりやすく、しかもユーモアを交えてのお取次ぎを頂きました。(以後要旨)

お念仏は、南無阿弥陀仏その字数からお六字さまとも申しますが、正式にはお名号と申します。決してお祈りの言葉や呪文ではありません。私共は皆お念仏を称えても宝くじは当たらないし、足の痛みのとれないことは知っています。しかしながら、お念仏を頂いておりながら本当はお念仏を知っていないのではないのでしょうか。お念仏はお名号と申しあげましたが、お名号とは阿弥陀様のお名のりと言うことであります。

私の口、声借り切つてナンマンダブ。我に任せよ そのまま救う”と私に称えられ、私に聞かれる姿をもつて大いにお名のりなされているのが”南無阿弥陀仏”のお念仏であります。そのお名のりにどういう意味があるのかと言いますと、親鸞聖人は”願と行”が備わっているとお示しくださいました。まず行とは、力であり働きであります。煩惱、欲にまみれ愚か

な凡夫、今のままでは地獄にしか行き場のない私をお浄土に参らせしめる力働きが、もうすでに準備出来あがっていることであり、願とはその行の力、働きをこの凡夫の私に向けて間違ひなく浄土に生まれさせたいという願ひであります。

この事の、裏を返せば阿弥陀様は”南無阿弥陀仏”と言うお念仏その一にこの私がお浄土に参らせて頂くそのお膳立てを全てきちんと調えられておられるということになります。お浄土に参るのは他でもないこの私であります。本来ならばこの私が浄土に生まれたいと願ひを建て、自分で修行をし、善行功德の徳を積んで浄土に参る力を作り上げていかなければならないのに、阿弥陀様の方がさきに先手を打つて到底その様な事の出来ようもない末代無智のこの私に”南無阿弥陀仏”と、だからこの弥陀に任せよ そのまま救うと名のりを上げて下さったのです。大事なことは、お念仏を称えたから救われるのではないのです。



逆に先に先手をかけて阿弥陀様がこの身に至り届き私の全てを見て取られそのお印として私の口、声借り切つて、南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏”と我に任せよ そのまま救うという弥陀の心が、南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏”と私に称えさせ私の耳に聞こえて下さるそのままが、お救いであり 私といつも一緒に居られ西へ浄土へと死んでからではない、生きている今、定められる欲びが私の称える他力六字のお名号 お念仏であります。

納骨堂募集



古い納骨壇にも空きが
出ました。
ご希望の方が居られま
したらご連絡ください。

お盆参りについて

本年も門徒会費納入時にお聞き
しましたご希望をもとに盆参りを
いたします。

初盆や寺での読経を希望された
方にはその日時などを書いたもの
を同封してありますのでお読みく
ださい。

また、ご自宅への盆参りを希望
された方は、ほぼ例年と同じ日に

お参りする予定ですが時間はお約
束できませんのでご了承ください。

お盆中の納骨堂のお参りについて

八月の十三日より十五日までは
閉館時間を午後九時にいたします。

午前九時半頃より午後三時頃ま
では、寺での法要と重なり駐車場
が混雑します。車での参りは避
けられた方が良くかと思えます。
また、長時間の駐車もご遠慮く
ださい。

寺役員紹介(順不同・敬称略)

代表役員 瀬川英孝
責任役員 鳥丸政亮、馬場節也、
田原秀子、瀬川英憲、
久永修平(新任)

総代 井之上忠雄、井ノ上英記、
永家俊三、村田隆、福留積治、
吉永成雄、馬場正蔵、瀬川英清、
永田静一郎、川井田學、有村忠、
有馬純博、竹井勝志(新任)、
御領勝芳(新任)、田中藤雄(新任)

監事 高山銀次郎、丸山賢治

あ と が き

「月々の言葉」を掲示板に張り
出し、簡単な解説を添えた文書を
本堂入り口と会館一階エレベータ
横に置くようにしました。寺にお参
りされた折、自由にお取り下さい。